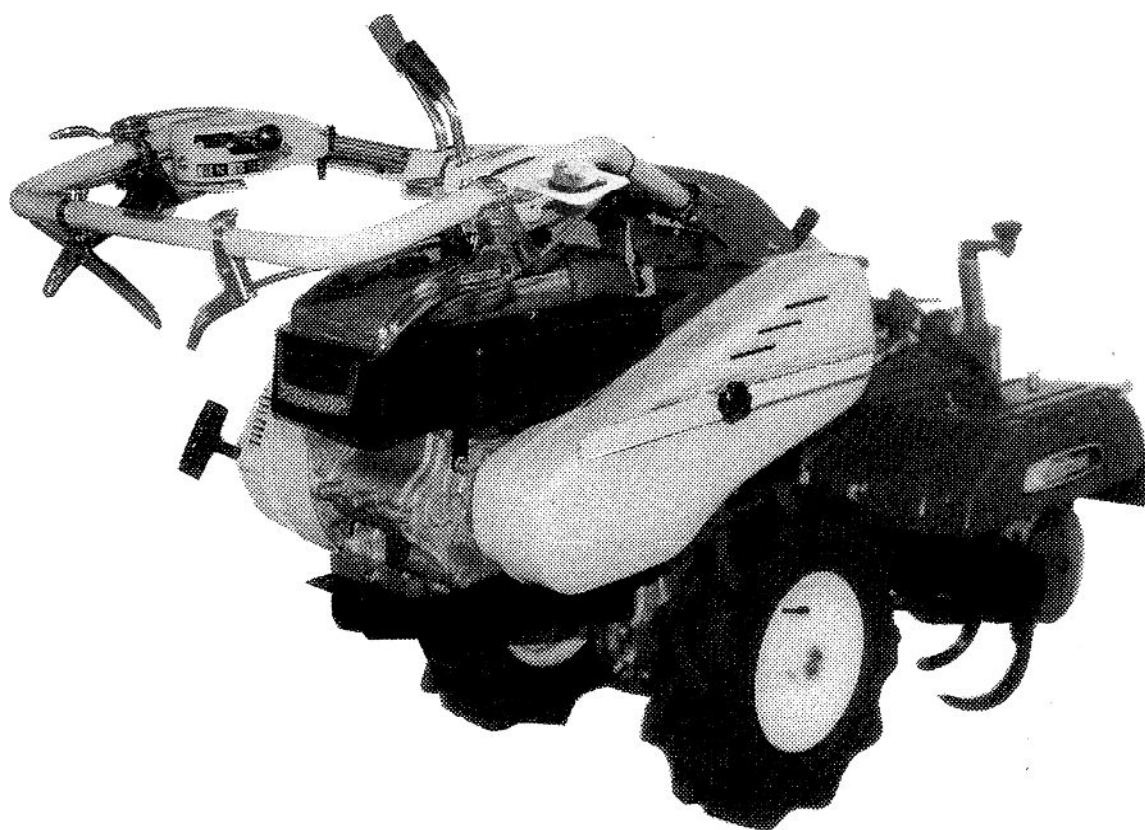


ヘルパー

管理作業機

取扱説明書

KF85



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。



関東農機株式会社

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないように注意してください。



エンジン停止



チョークレバー



ガソリン燃料

専門用語の説明

O

燃料コック[開]

C

燃料コック[閉]

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

安全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に張られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取り扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように説明しています。

-  **危険**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。
-  **警告**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。
-  **注意**：注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを表示します。

目次

▲ 安全に作業するために	
機体方向の説明	！-1
諸注意事項	！-2

サービスと保障について	
各部の名称と装置の取扱い	
各部の名称	2

作業前の点検	
ボルト・ナットの点検	3
給油・注油	3
エンジンオイル	3
燃料	4
ミッションオイル	4
エアクリーナー	5

運転のしかた	
始動のしかた	6
停止のしかた	7
発進のしかた	8
ロータリ変速	9

ロータリの脱着	
ロータリの取外し方	10
ロータリの取付け方	10

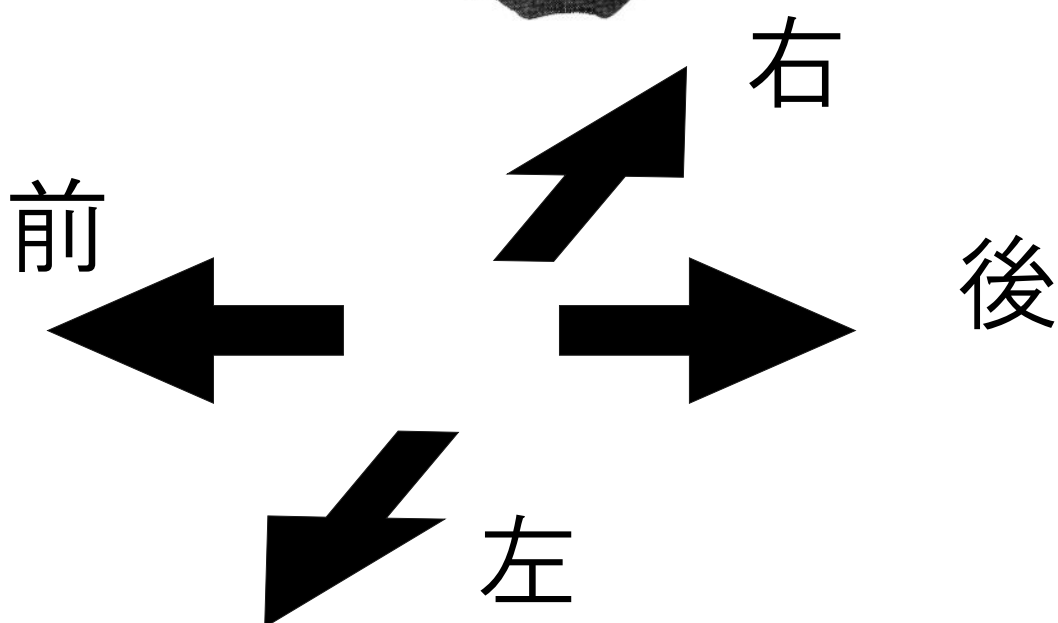
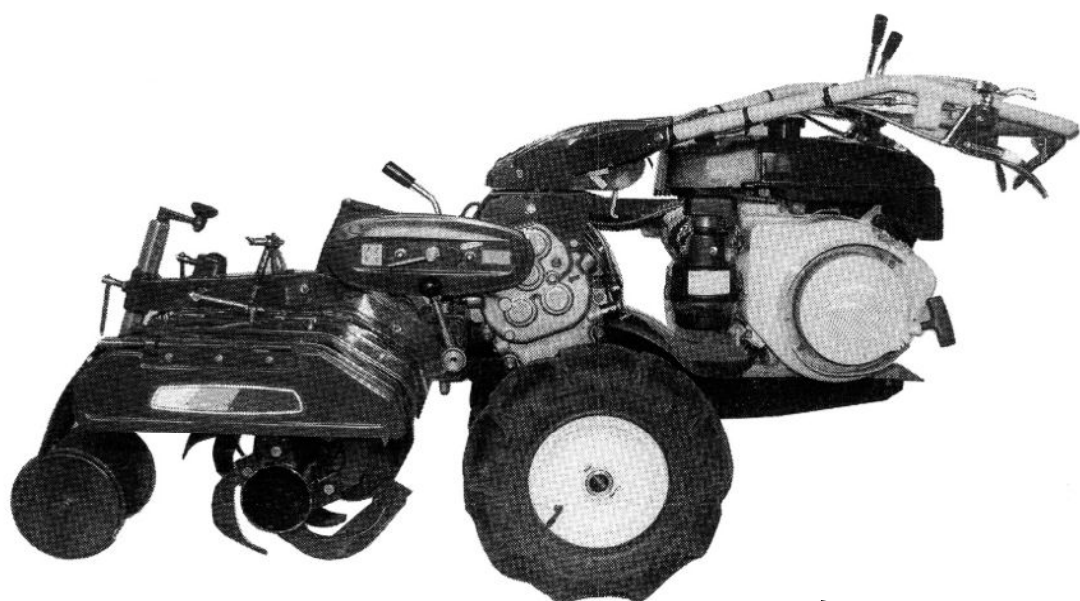
管理機の簡単な手入れと処置	
廃棄物の処理について	11
エンジンオイルの交換	11
ミッションオイルの交換	11
排油のしかた	11
エアクリーナエレメントの清掃とオイル の交換	12
燃料フィルタの清掃	13
点火プラグの調節・清掃・交換	13
ベルトテンションの調整	14
サイドクラッチの調節	15
スロットルレバーの調整	15
使用後の手入れ	16
エンジン始動不良を防ぐために	16
長期保管時の手入れ	16
燃料の抜取り	16
洗淨時の注意	17

管理機を運搬する時	
自動車(トラック)への積込み、運搬	18

付表	
主要諸元	
トラブルと処置	

⚠ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。
この「取扱説明書」で使用している〈前後、左右〉などの《用語》は図示のように決めています。





安全に作業するために

管理機の取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で効率的な作業を行うために、次のことをお守りください。



危険

以下の項目に該当する人は、機械を使用しないでください

1. 飲酒時や体調の悪い時、または妊娠中の人
2. 本書及びラベルの内容が理解できない人
3. 視力不足などのため表示内容が読めない人
4. 16歳未満の人
5. ハンドルを操縦する体力に自信のない人

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



危険

作業に適した服装

1. はち巻・首巻・腰タオルは厳禁
2. だぶつきのない服装
3. ヘルメットなどの防護具の着用

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



危険

他人に機械を貸すときは取扱い方法を説明する

取扱い方法を説明し、使用前に取扱い説明書を必ず読むように指導してください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



危険

機械の改造禁止

純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けしないでください。
機械を改造しないでください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



注意

点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。
定期の点検・整備は必ず受けてください。

〈守らないと〉

自己・ケガ・機械の破損を招く恐れがあります。



警告

ロータリー作業ではダッシュに注意

土が硬かったり石の多い場所ではロータリーをゆっくりと地面に下ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシュ)することがあります。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。



危険

ハウス内での作業は換気を充分にする

排気ガスが充満しないように充分に換気を行ってください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。



安全に作業するために



警告

子供を近付けない
子供には十分に注意し機械に近づかせず絶対に触れさせないでください。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。



警告

作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を読む
作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の説明書をよく読んで理解してください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。



警告

作業機の脱着は平坦な場所で行う
作業機の脱着は平坦で安定した場所で行ってください。
夜間は適切な照明をしてください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。



警告

溝、あぜ越えは、アユミ板を使用する
ほ場に入るとき、溝、あぜを渡るときや軟弱な所を通るときは幅長さ、強度の充分にあるアユミ板を使用してください。

〈守らないと〉

転倒やスリップによる事故を引き起こす恐れがあります。



注意

点検・整備は平坦な場所で行ってください
点検・整備は機械が倒れたり、動いたりしない平坦で安定した場所でタイヤに輪止めをして行ってください。

〈守らないと〉

機械が転倒するなど、思わぬ事故を招く恐れがあります。



警告

点検・整備中はエンジン停止
点検・整備・修理または掃除を行うときはエンジンを停止させて行ってください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

カバー類は必ず取り付ける
点検・整備などで取り外したカバー類は必ず元通りに取付けてから作業してください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

下にもぐったり、足を入れない
ロータリーの点検・整備をするときは、下にもぐったり足を踏みこんだりしないでください。

〈守らないと〉

ロータリーが下がったとき傷害事故を負う恐れがあります。



安全に作業するために



危険

燃料補給・注油時は火気厳禁

燃料を補給する、あるいは機械に注油する際はエンジンを停止させてください。また、くわえタバコでの作業、裸火照明の下での作業は絶対にしないこと。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



警告

燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料をきれいに拭き取ってください。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



危険

排気ガスには十分に注意する

閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は十分に換気してください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたる恐れがあります。



注意

マフラーの高温に注意

運転中及びエンジン停止直後のマフラーは高温です。
触れないでください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れがあります。



警告

マフラー、エンジン周りのゴミは取り除く

マフラー、エンジン周辺にゴミ、ワラクス、燃料が付着していないか作業前に点検し、付着している場合は取り除いてください。

〈守らないと〉

火災を引き起こす恐れがあります。



警告

坂道、アユミ板の上での変速禁止

適正な変速段を選択し、坂道やアユミ板の上では主クラッチを切ったり変速をしないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こす恐れがあります。



注意

エンジン始動時は周囲の安全を確認する

エンジンを始動する際は主クラッチが「切」、主変速が「中立」になっていることを確認してください。
リコイルの引き方向に人や障害物、突起物がないか確認してください。
また、周囲に人を近付けないでください。

〈守らないと〉

傷害、事故を引き起こす恐れがあります。



安全に作業するために



注意

発進、作業時は以下のことに注意してください
車速の最低速で主クラッチの「入」はゆっくり行い、「切」は素早く操作できるように習熟した上で使用してください。
小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回を行わないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。



警告

移動する際はロータリーを停止させる
移動するときはロータリークラッチレバーを「切」にしてください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

運搬には天井のない車を使用する
運搬には荷台に天井のない車を使用してください。荷台の上ではエンジンを切り手で引き出ししてください。

〈守らないと〉

ハンドルと天井にはさまれたり、転落したりして傷害を負う恐れがあります。



警告

積み降ろしに用いるアユミ板は機体重量に十分に耐え、滑り止めのついたものを使用し確実に固定してください。
荷台の高さが「1」に対しアユミ板の長さが「4以上」になるものを使用してください。
積み降ろしは平坦な場所で行い周囲に人や障害物がないことを確認し、最低速で上りは「前進」下りは「後進」で行い、途中で主クラッチを切ったり、変速操作を行わないでください。

〈守らないと〉

転落などの事故を引き起こす恐れがあります。



注意

格納するとき
機体に保管用シートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが充分冷えてから掛けてください。
火災予防のため、ワラ・草等可燃物のある場所での保管はしないでください。

〈守らないと〉

火災事故を引き起こす恐れがあります。



注意

夜間作業の禁止
本機には夜間作業灯を装備しておりませんので夜間作業を行わないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

廃棄物の処理

廃油やゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。

〈守らないと〉

みだりに捨てたり、焼却すると法令により処罰されることがあります。

サービスと保証について

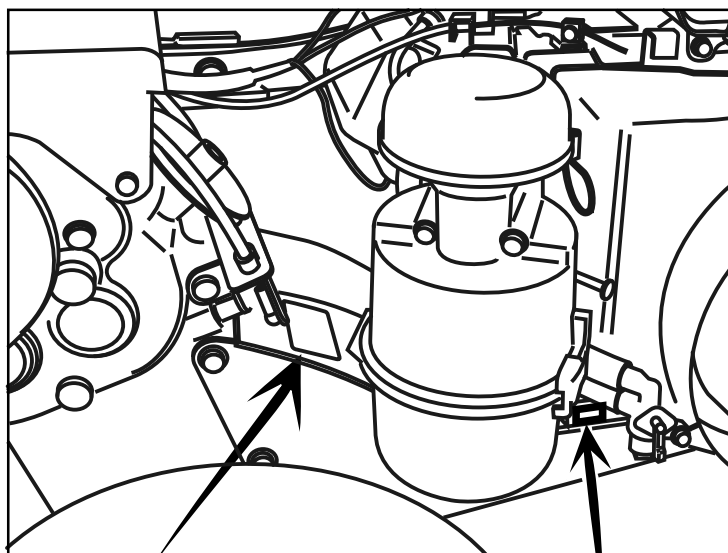
この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買い上げの販売店又は直接当社にお気軽にご相談ください。

その際

- (1) 型式名
- (2) 車台番号（製造番号）
- (3) エンジン番号
- (4) 故障内容（できるだけ詳しく）
 - ・どのような作業をしていましたか
 - ・どのくらい使用していましたか（アール、又は時間）



車台番号（製造番号）

エンジン番号（エンジンリコイル側に打刻）

⚠ 警告

機械の改造はしないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故につながる恐れもあります。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる使用を行った場合はメーカーの保証の対象外になりますのでご注意ください。

◆型式

販売型式名	K F 8 5
農機販売型式	K F 8 5

農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型 式 名		K F 8 5
区 分		
搭載 機関	型 式 名	GB290LN
	連続定格出力	4.4kw (6.0PS) / 1800rpm
製 造 番 号		
製造元：関東農機株式会社		

⚠ 警告

トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般行動を走行すると、道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは、自動車（トラック）に積んで運搬してください。

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後9年といたします。

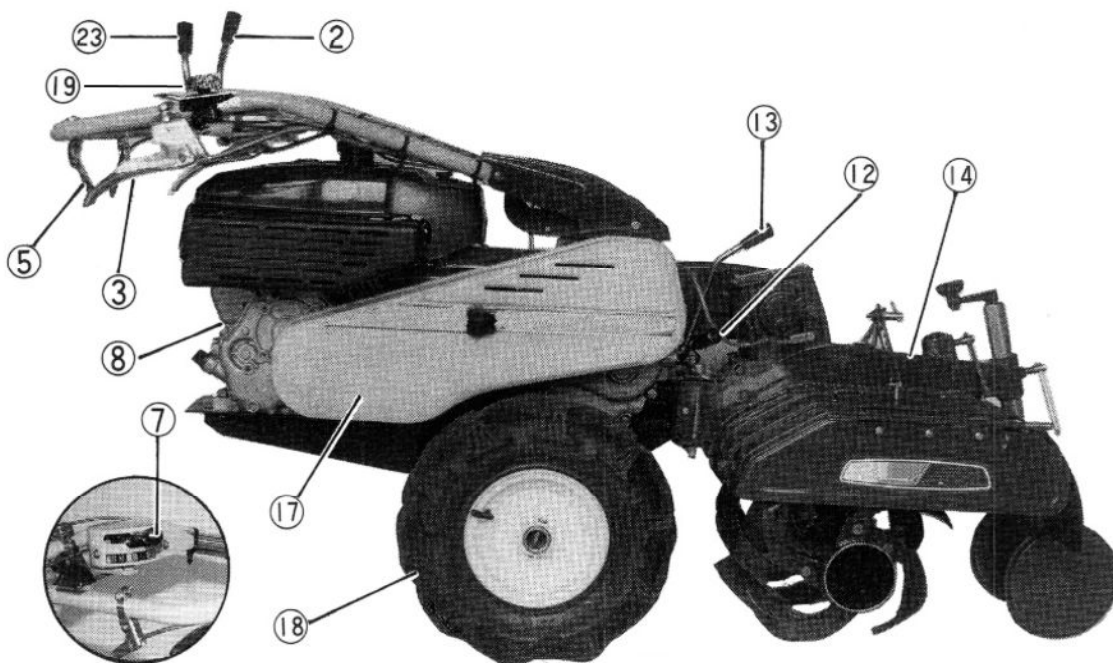
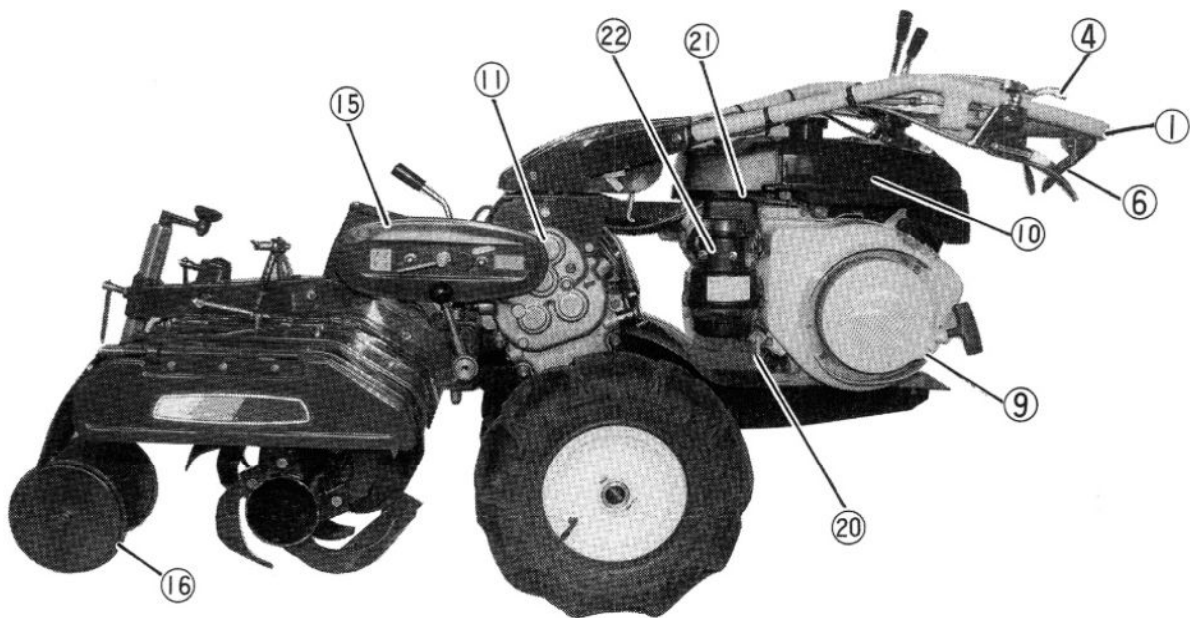
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則として上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

各部の名称と装置の取扱い

■機体方向説明と装置の名称

- | | | |
|---------------|----------------|------------------|
| 1. ハンドル | 12. 副変速レバー | 23. ロータリークラッチレバー |
| 2. 主クラッチレバー | 13. PT0変速レバー | 24. 主変速レバー |
| 3. サイドクラッチレバー | 14. ロータリー | |
| 4. スロットルレバー | 15. 1次チェンケース | |
| 5. 上下回動レバー | 16. 双尾輪 | |
| 6. 左右回動レバー | 17. ベルトカバー | |
| 7. 主変速レバー | 18. 車輪 | |
| 8. エンジン | 19. エンジン停止スイッチ | |
| 9. リコイルスターター | 20. 燃料コック | |
| 10. 燃料タンク | 21. 点火プラグ | |
| 11. ミッションケース | 22. エアクリーナ | |



作業前の点検

⚠ 注意

- ※ 平坦な場所に機械を安定させ点検してください。
- ※ 点検はエンジンを停止させ、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行ってください。

⚠ 警告

- ※ 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーはじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえタバコでの給油は絶対にしない。
- ※ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- ※ 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- ※ 給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようにしっかり締めてください。
- ※ 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

1. 運転まえの準備

● ボルト・ナットの点検

エンジン・ホイールハブ・ハンドルなどの各部取付けボルト・ナットを点検します。

■ 給油・注油

工場出荷時、各給油箇所にはオイルが入れてありません。

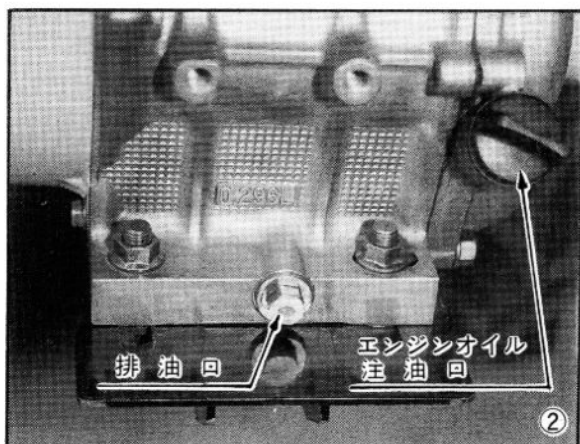
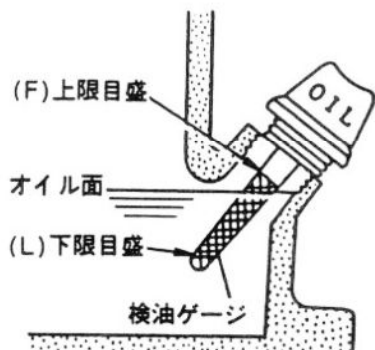
下表にしたがい給油・注油してください。

給油箇所	種類	容量	交換時期
エンジン	エンジンオイル 10W-30	1.0ℓ	毎日点検50時間毎交換（新車25時間）
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	5.4ℓ	
ミッションケース	ミッションオイル #90	3.5ℓ	毎日点検50時間毎交換（新車20時間）
エアクリーナー	エンジンオイル	OIL↑LEVEL線まで	毎日点検50時間毎交換
ロータリケース	ミッションオイル #90	0.45ℓ	毎日点検50時間毎交換（新車20時間）
レバー支点	グリース	適量	毎日注油
ケーブル類	エンジンオイル	適量	毎日注油

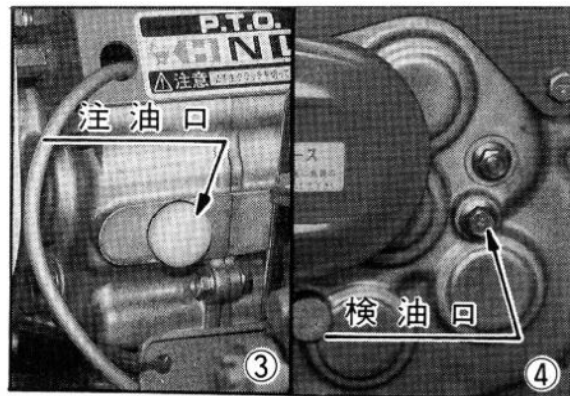
- ① エンジンの燃料タンクに燃料（自動車用レギュラーガソリン）を入れてください。
必ずこしきを使って下さい。（写真1）
ガソリン容量・・・5.4ℓ



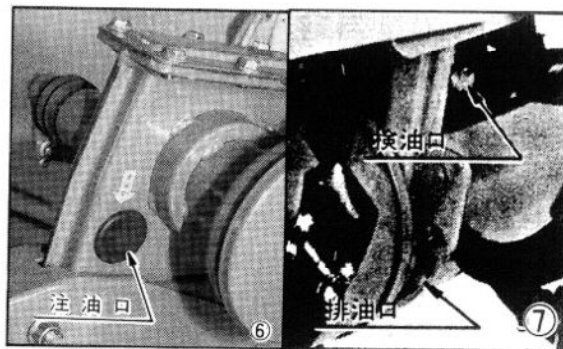
- ② エンジンオイル（SC級以上）を入れて下さい。
（写真2）
エンジンオイル容量・・・1.0ℓ



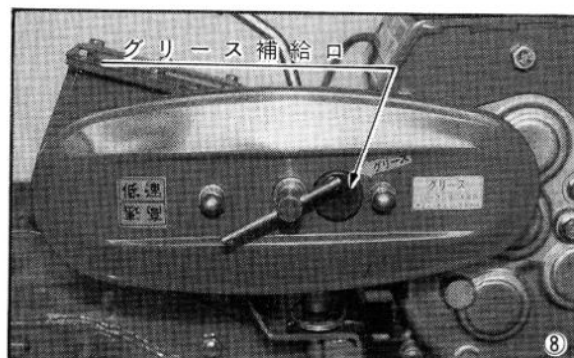
- ③ ミッションにオイルを入れて下さい。
検油口よりオイルが出るまで入れてください。
（写真3、4）
規定量 90#・・・3.5ℓ



- ④ ローターケースにオイルを入れて下さい。
（写真6）
検油口よりあふれるまで入れて下さい。
（写真7）
規定量 90#・・・0.45ℓ

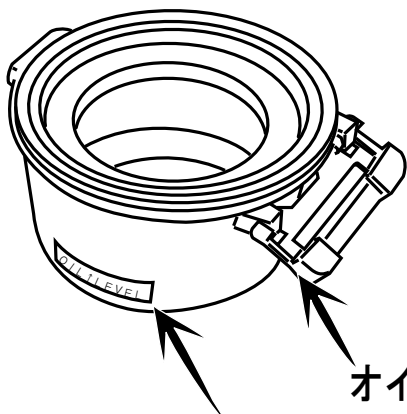
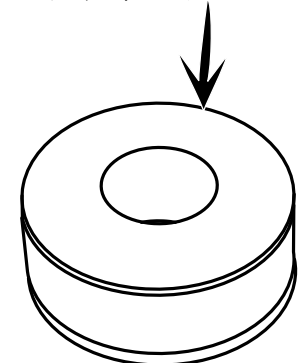


- ⑤ 1次チェーンケースにグリスを入れてください。
1シーズン毎に良質グリスを約30cc
位注油口より入れて下さい。（写真8）



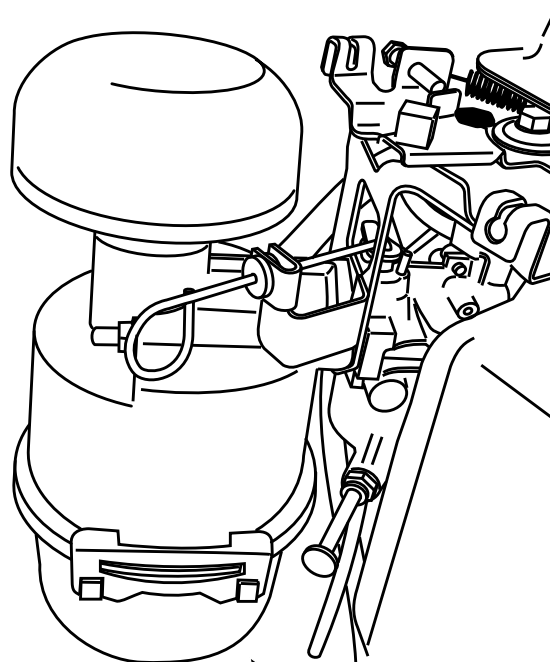
- ⑥ エアクリーナーにオイルを入れて下さい。
・エンジンオイルを（OIL↑LEVEL）まで入れて下さい。

エアクリーナーエレメント



オイルパン

「OIL↑LEVEL」刻印箇所



エアクリーナー

- ⑦ 摺動（しゅうどう）部注油箇所
- ・オイル・・・エンジンオイル（適量）
 - ・注油箇所
 - ワイヤ類
 - 主クラッチレバー軸
 - 主変速レバー軸
 - テンションプーリ軸
 - その他摺動部分

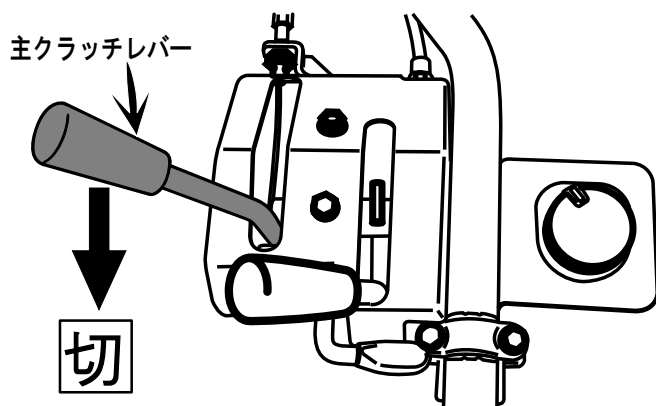
運転のしかた

注意

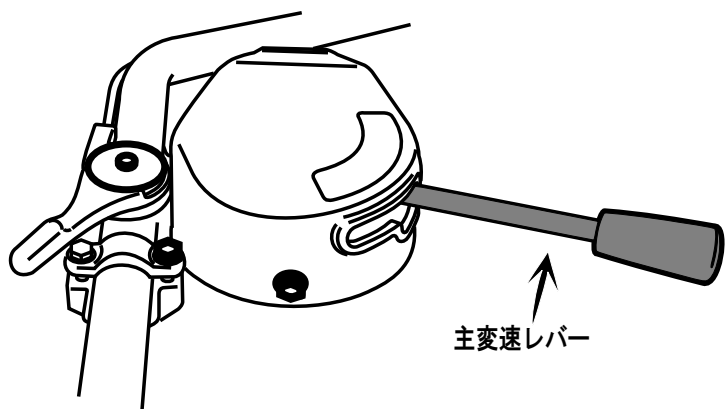
- ※ マフラの排気方向に燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
- ※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確認してください。傷害事故のおそれがあります。
- ※ ヤケド注意。エンジンの作動中また停止後しばらくはマフラやその周辺が高温になっています。操作レバー以外の部分に触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- ※ 夜間作業は行わないでください。
- ※ エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを「切」にしてください。

1. エンジンの始動

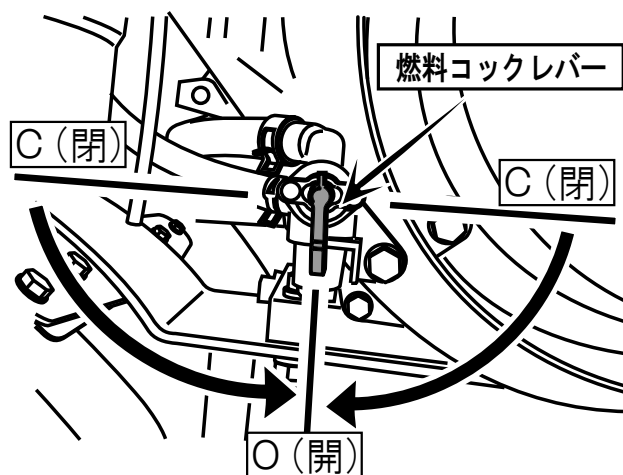
- 1) 主クラッチレバーが「切」になっていることを確認します。



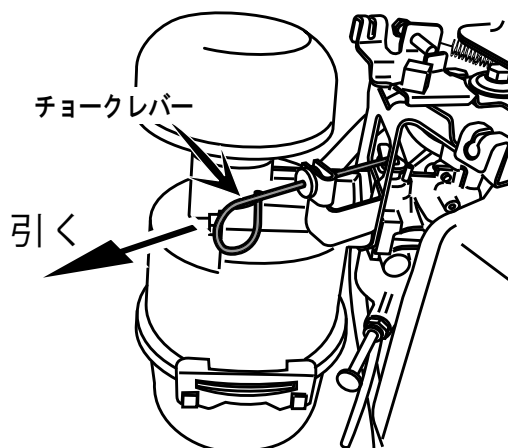
- 2) 主変速レバーを「中立」にします。



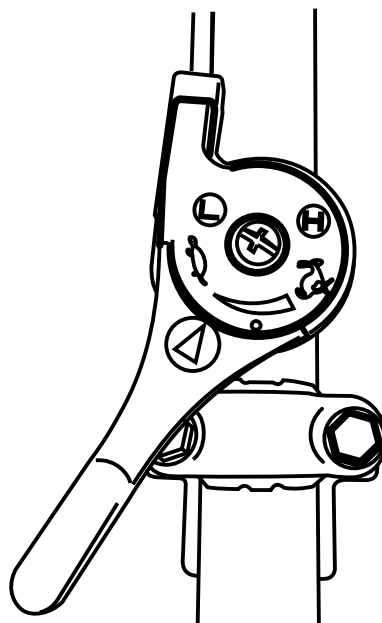
- 3) 燃料コックを[0]（開）にします。



- 4) チョークレバーを引きます。
(外気温が15℃以下の場合)



- 5) スロットルレバーを始動位置にします。

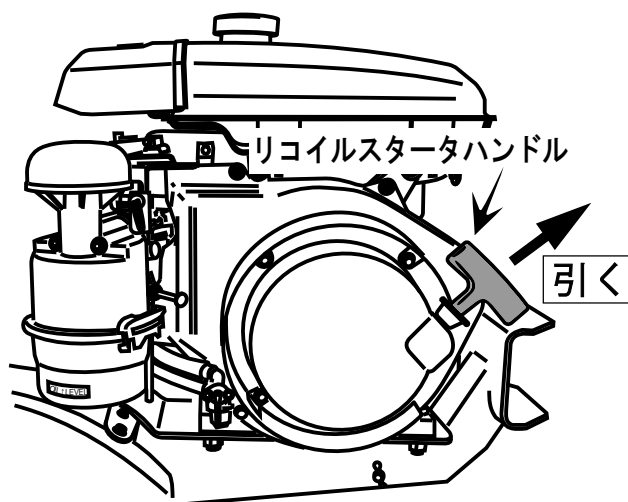


運転のしかた

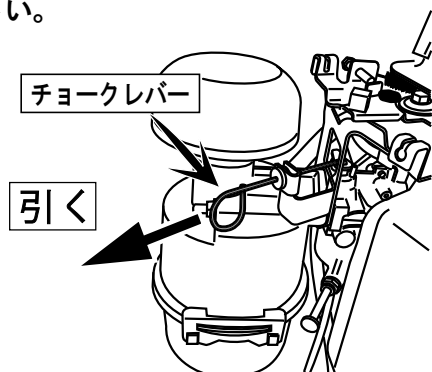
- 6) エンジンスイッチを押しながら「運転」の位置まで回します。



- 7) エンジンリコイルスタータハンドルを握って引っ張ります。エンジンが始動したらリコイルスタータハンドルを静かに戻します。



- 8) チョークレバーを引いてエンジンを始動した場合はエンジンの状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に押し込んでください。



- 9) 2～3分暖機運転をしてから作業をはじめてください。

重要

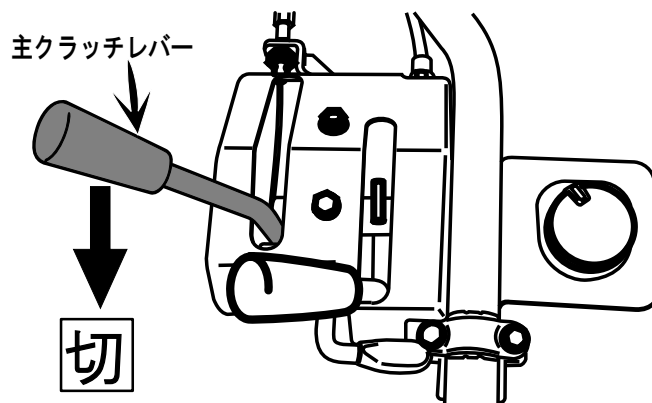
※ 運転中はリコイルスタータを引かないでください。

警告

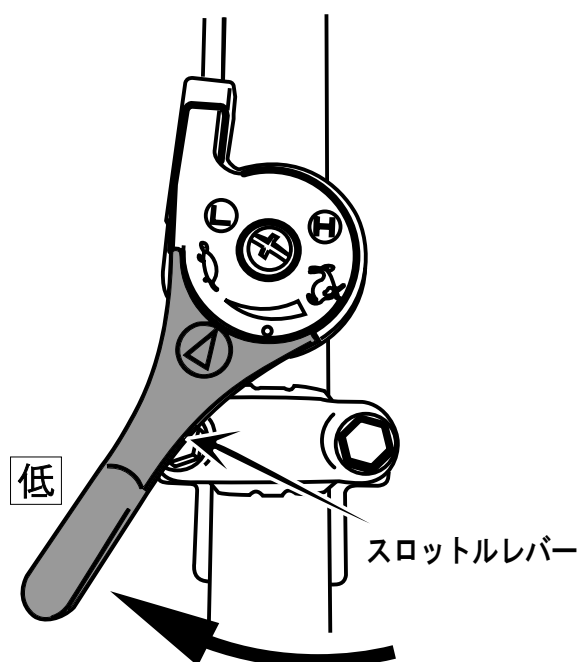
※ 運転中はマフラがあつくなっていますので手を触れたり可燃物を近づけないでください。ヤケドや傷害、火災のおそれがあります。

2. エンジンの停止

- 1) クラッチレバーを「切」にします。



- 2) スロットルレバーを「低」にします。

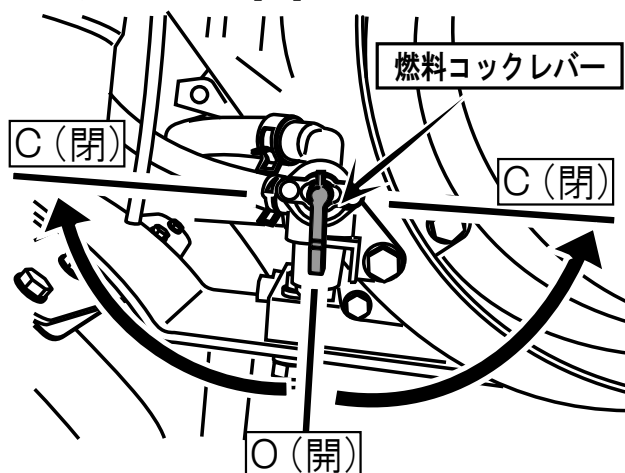


運転のしかた

- 3) 主変速レバー、副変速レバーを「中立」にします。
- 4) エンジンスイッチを押すと左に回って「停止」位置に戻りエンジンが停止します。



- 5) 燃料コックを[C] (閉) にします。



重要

- ※ コックを開いたままの状態では保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難になる場合があります。
- また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

警告

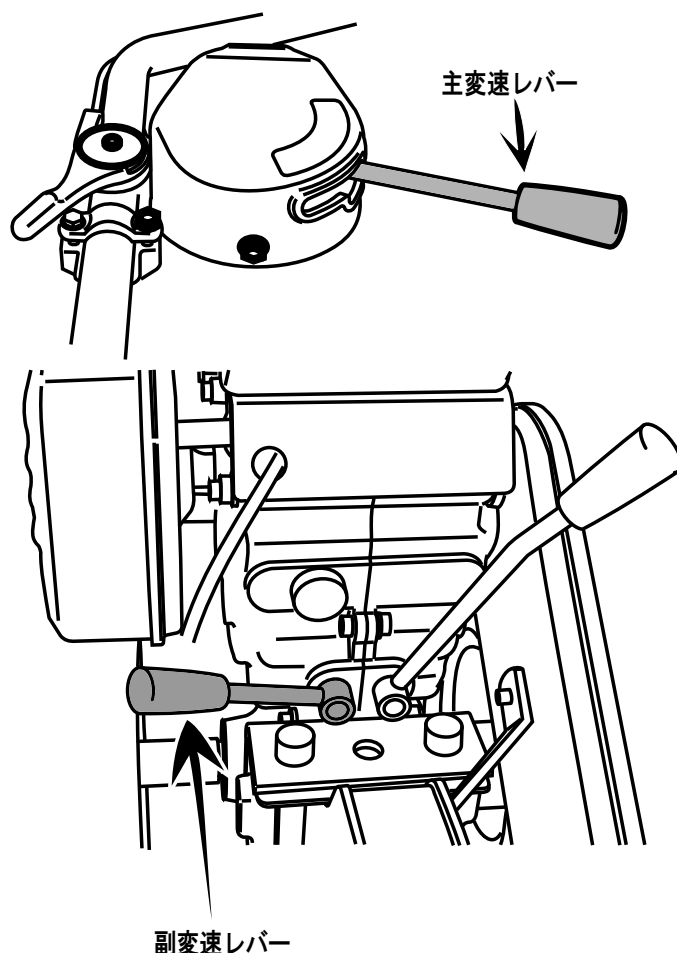
- ※ 停止後はしばらくマフラがあつくなっています。手を触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- ※ エンジンが完全に冷えるまで、納屋にしまったりシートをかけないでください。火災のおそれがあります。

3. 発進のしかた

警告

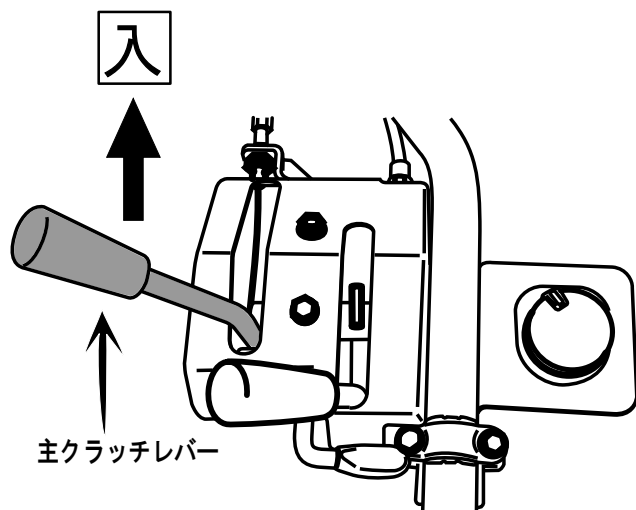
- ※ 運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。
- ※ 傾斜地での運転や発進をするときなどはハンドルが持ち上がり、体や首がはさまれるおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
- ※ 狭い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上部などまわりの安全を確かめてから主クラッチ操作をしてください。

- 1) 作業に適した速度になるよう主変速レバーと副変速レバーを操作してください。



運転のしかた

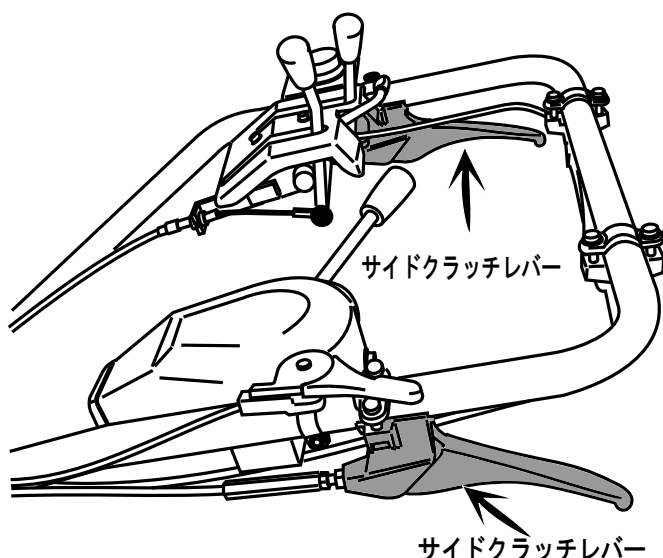
2) 主クラッチレバーをゆっくりと「入」にします。



3) 走行中の方向転換はサイドクラッチで行ってください。

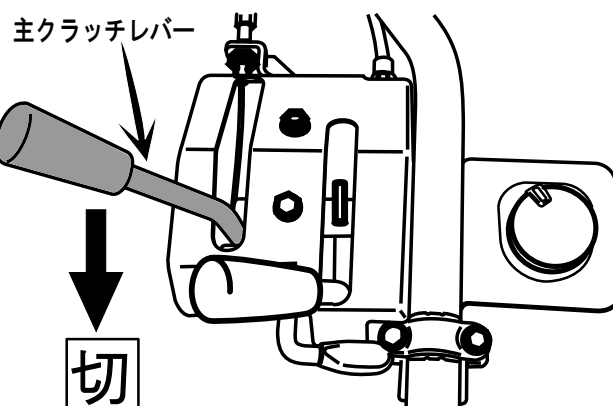
⚠ 注意

- ※ 傾斜地ではサイドクラッチ操作に注意してください。左右同時に作動させると機体の制御が失われ傷害事故のおそれがあります。
- ※ トラックに積込む際はサイドクラッチを使用しないでください。落下・傷害事故のおそれがあります。
- ※ サイドクラッチ操作はエンジンの回転を低速にしてから行ってください。特に高速の時は急旋回し傷害事故のおそれがあります。

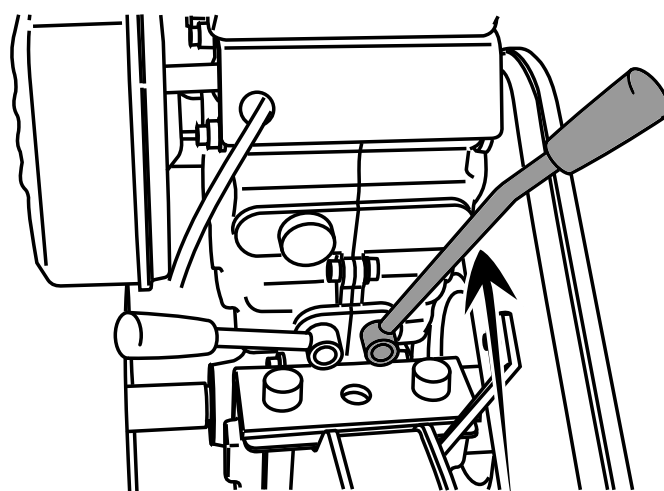


4. ロータリ変速

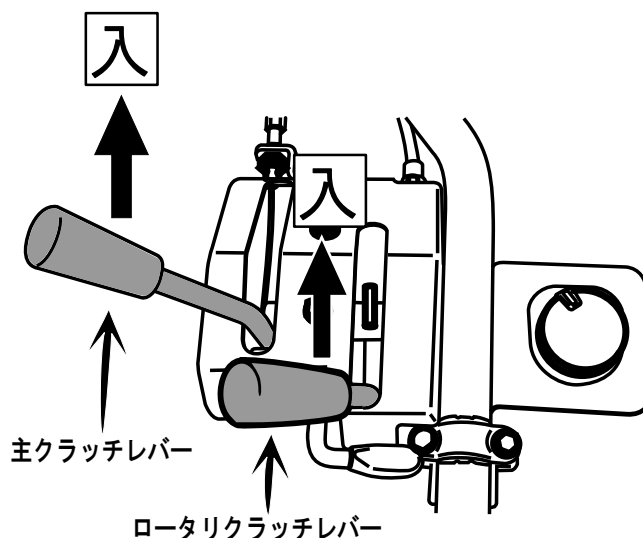
1) 主クラッチレバーが「切」になっていることを確認します。



2) ロータリの回転数と尾輪の高さを作業に適した位置に調節してください。



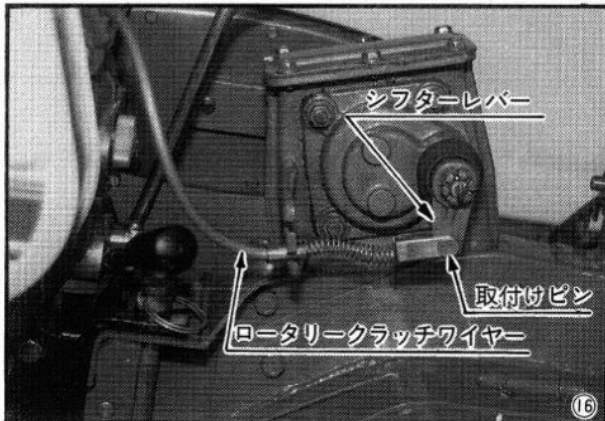
3) 目的の車速に変速し、ロータリクラッチレバーを「入」にし主クラッチレバーをゆっくりと「入」にします。



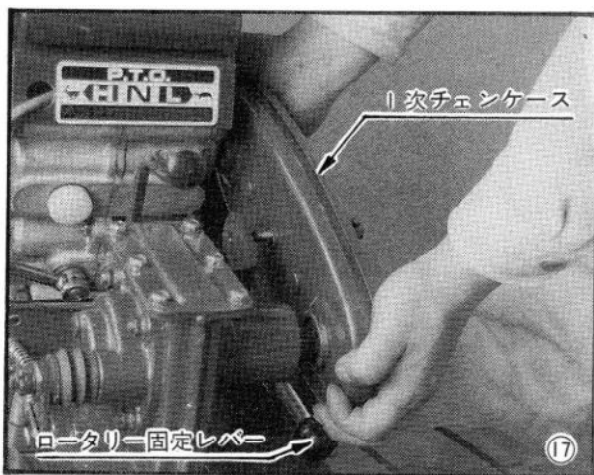
ロータリの脱着

1. ロータリの取外し方

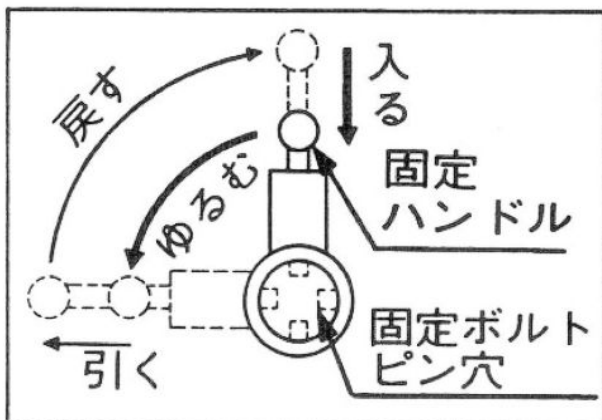
- 1) ロータリの爪軸を接地させて尾輪がわずかに上がった状態にし安定させます。
 - 2) ロータリクラッチワイヤーを取外します。
ロータリケースにあるシフターレバー側のピンを抜きワイヤー受けから外します。
- ※ 抜いたピンはワイヤーに取付けておくこと。



- 3) 1次チェーンケースの中央の締付ネジを緩めてケースを引抜きます。

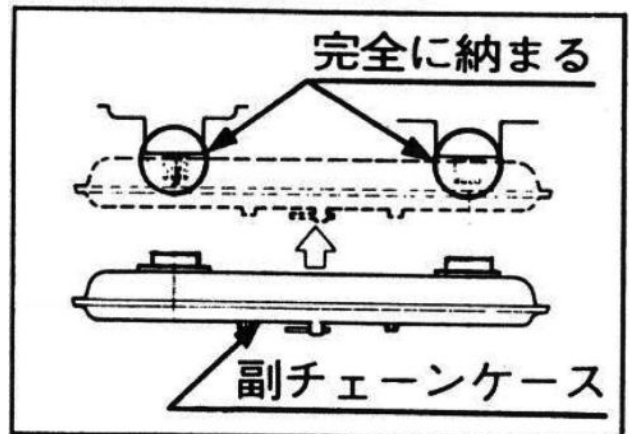


- 4) ロータリ固定レバーで固定ボルトを緩めヒッチピンを抜きます。

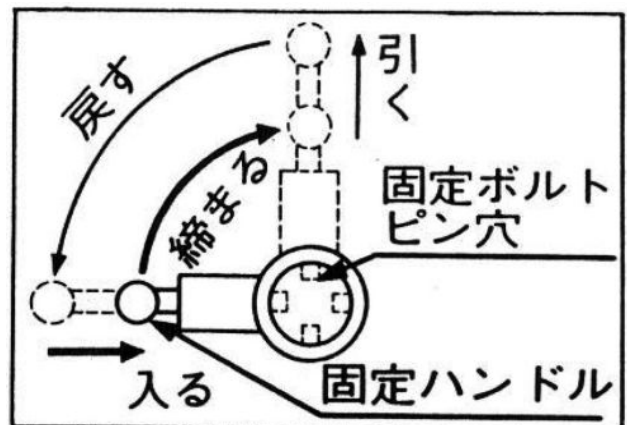


2. ロータリの取付け方

- 1) ロータリのヒッチがわずかに上向きになるようにロータリを安定させます。
- 2) 本機のヒッチにロータリのヒッチを挿入し、穴を合わせてヒッチピンを差込みます。
- 3) 1次チェーンケースを取付けます。爪軸を手で回転させたり、本機側のエンジンリコイルをわずかに引きスプラインの溝を合わせてください。締付ネジを締付けます。



- 4) ロータリ固定レバーを締付けてください。
締付け後、固定レバーはロータリ側に倒してください。



簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について

警告

廃棄物をみだりにすてたり焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- ※ 機械から廃液を抜く場合は容器に受けてください。
- ※ 地面へのたれ流し、河川、湖沼、海岸への投棄はしないでください。
- ※ 廃油・ゴム類・その他の有害物質を廃棄、または焼却するときは購入先または廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

日常の手入れについて

注意

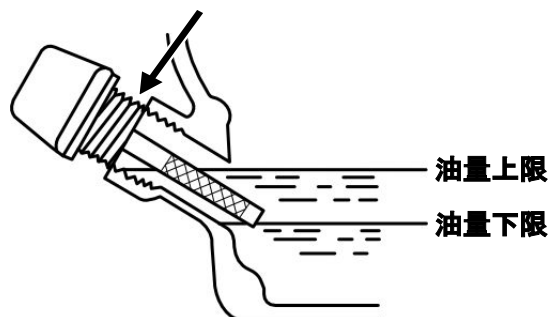
- ※ 給排油・点検・調節・清掃はエンジンを停止しエンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- ※ 平坦な場所に機械を安定させ行ってください。

■エンジンオイルの交換

◆ 給油のしかた

エンジンを水平にしてオイルゲージを用いて規定量まで入れます。

給油プラグ（オイルゲージ）
（ねじ込まずに差込む）



◆ 排油のしかた

機体を安定させプラグをはずし排油してください。
この時、必ずオイルパン等で受けてください。

重要

※ 粗悪なオイルを使用するとエンジンの寿命を急激に縮めます。エンジンオイルを交換・補充する際には購入先でエンジンオイル10W-30とご指定の上お求めください。

（次頁のオイルの点検と交換表を参照）

※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

■ミッションオイルの交換

◆ 給油のしかた

機体を水平にし検油口まで給油してください。

◆ 排油のしかた

ミッションケース下部にある排油プラグを外し排油します。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

補足

※ 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。

重要

※ 粗悪なオイルを使用するとミッションの寿命を急激に縮めます。ミッションオイルを交換・補充する際には購入先でミッションオイル#90とご指定の上お求めください。

（オイルの点検と交換表を参照）

※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

※ オイル交換をする場合は、排油プラグを外して排油しますが、ケース内のゴミも同時に排出させるため、できるだけ運転使用後、オイルが温まっている状態の時排出してください。

給油箇所	種類	容量	交換時期
エンジン	エンジンオイル 10W-30	1.0ℓ	50時間毎交換（新車25時間）
ミッションケース	ミッションオイル #90	5.4ℓ	50時間毎交換（新車20時間）

簡単な手入れと処置

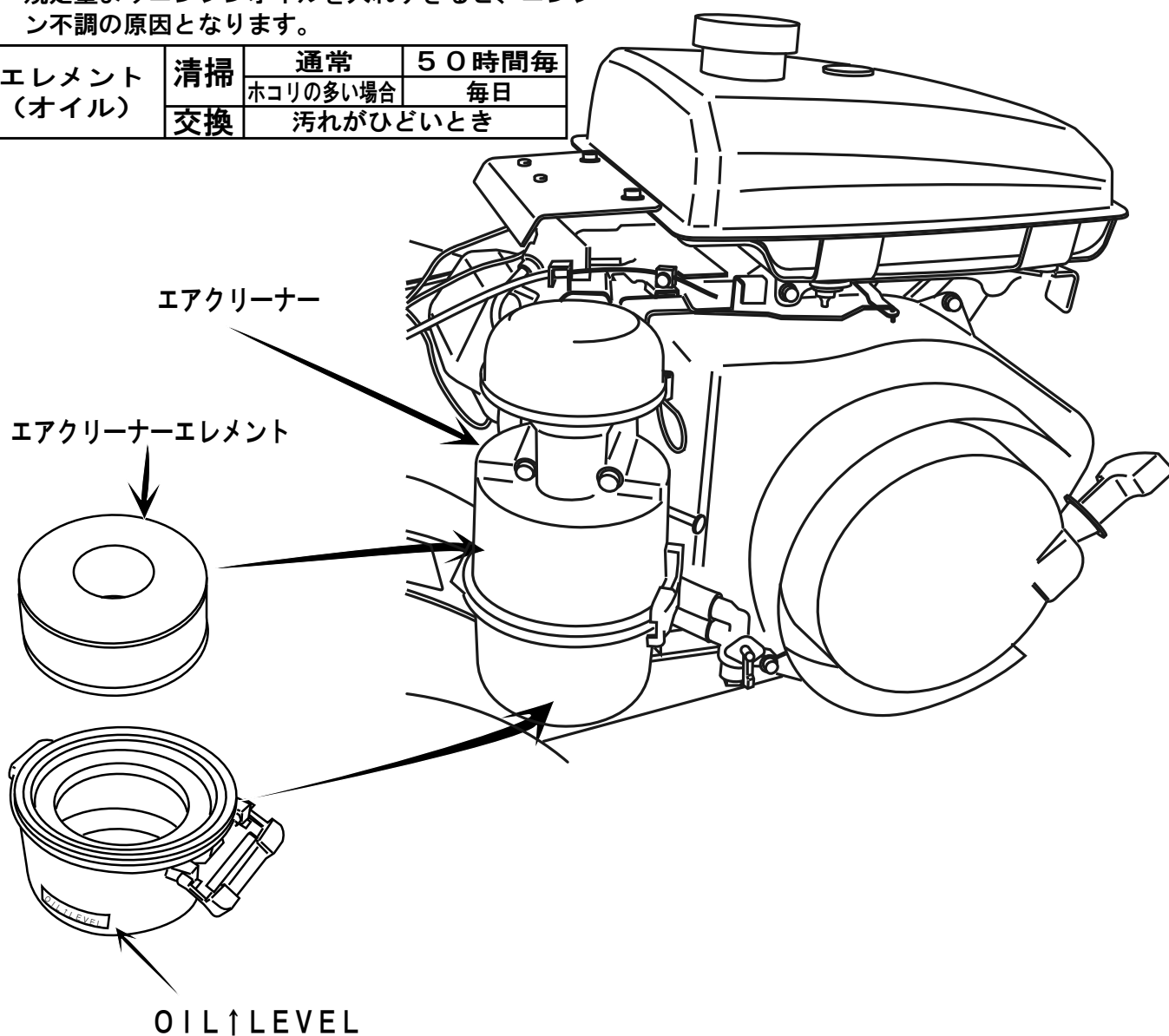
■エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

1. エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを塗布してよく振切ってから取付けてください。
 2. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
- 規定量・・・OIL↑LEVELと記載されているところ

重要

- ※ エアクリーナを取外したままエンジンを始動しないでください。ホコリやゴミを吸込みエンジン不調やエンジン異常摩擦の原因となります。
- ※ 汚れたまま使用すると、エンジン出力低下や故障の原因になります。
- ※ チリやホコリの多い環境で作業する場合毎日点検してください。
- ※ 規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。

エレメント (オイル)	清掃 交換	通常	50時間毎
		ホコリの多い場合 汚れがひどいとき	毎日



簡単な手入れと処置

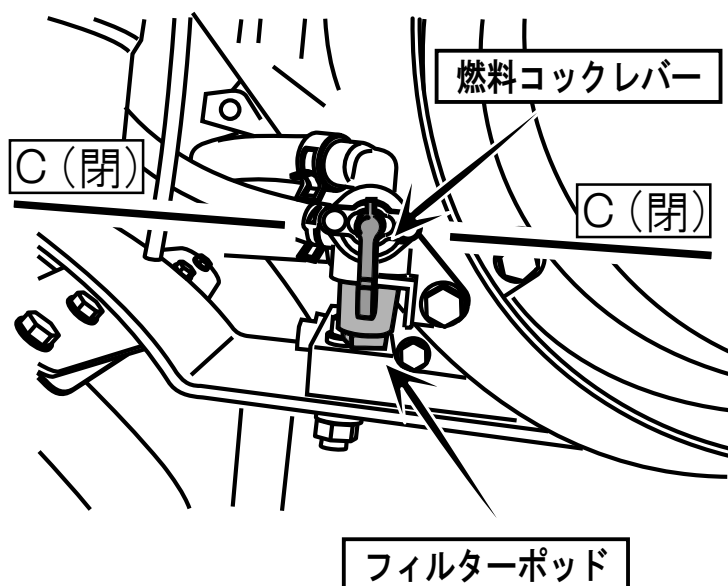
■燃料フィルタの清掃

⚠ 注意

※ 取付け後、ガソリンもれがないか確認してください。

1. 燃料フィルタは燃料のゴミを取り除きます。取り除かれたゴミはポッドの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを[C]（閉）にしてフィルタポッドを外しポッドの底にたまっているゴミや水を捨てます。

100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃

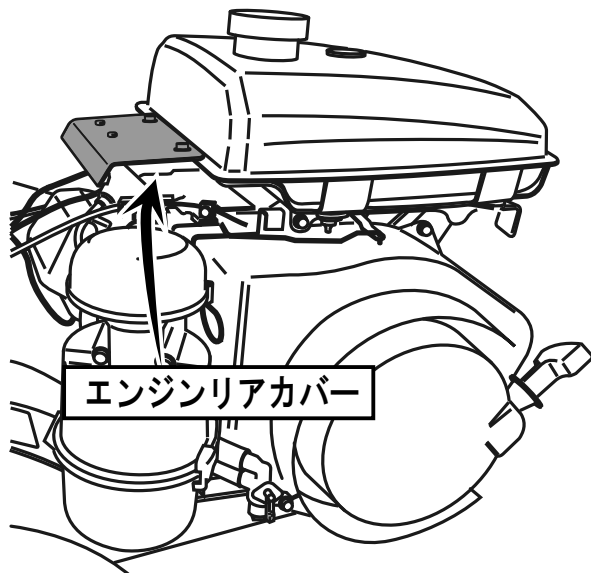


■点火プラグの調節・清掃・交換

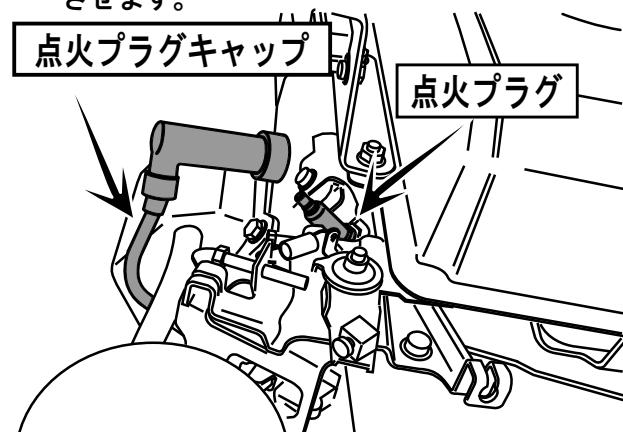
⚠ 注意

※ 高温部が冷えてから行ってください。

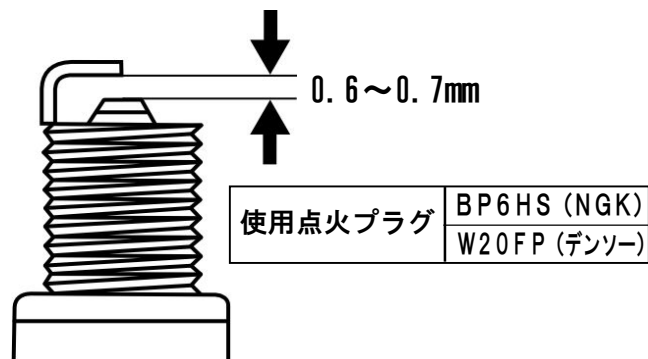
1. エンジンリアカバーを外します。



2. 点火プラグキャップを外し点火プラグを露出させます。



3. 付属のプラグボックスでプラグを外して電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリでみがきます。
4. 電極の隙間は0.6～0.7mmになるよう調節してください。
5. 点検清掃は6ヶ月に1回行ってください。



6. 作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。

重要

- ※ プラグ締付け時はねじ山をつぶさないようにはじめは手で締め込んでからプラグボックスで締付けてください。
- ※ 調整・清掃してもエンジンが不調なときは新しいプラグと交換してください。
- ※ プラグを外したまま始動操作をしないでください。

簡単な手入れと処置

■ベルトテンションの調整

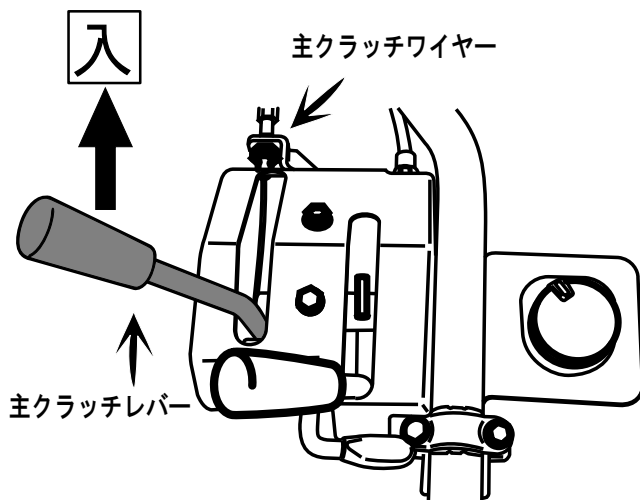


警告

- ※ ベルト調整を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。
- ※ 調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ※ エンジンを始動する前に、変速レバーを中立にしてください。
- ※ 調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こす恐れがあります。

◆主クラッチケーブルによる調整

1. 主クラッチレバーの操作荷重が6～7kgになるよう主クラッチワイヤー調節ネジで調節します。



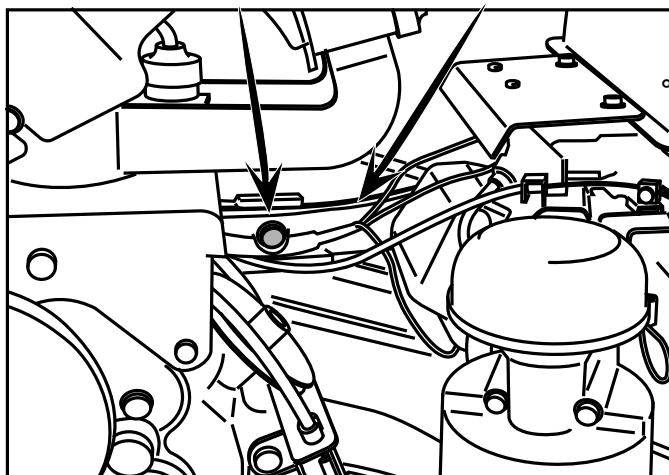
◆エンジン前後によるベルトの調節

主クラッチケーブルで調整しきれない場合エンジンを前後に動かすことで調節します。

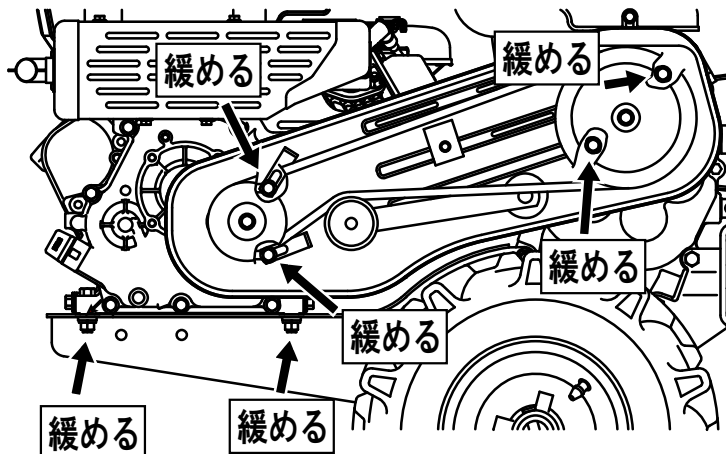
1. ベルトカバーを外します。
2. 振動防止プレートを固定しているボルトを緩めます。

ボルト

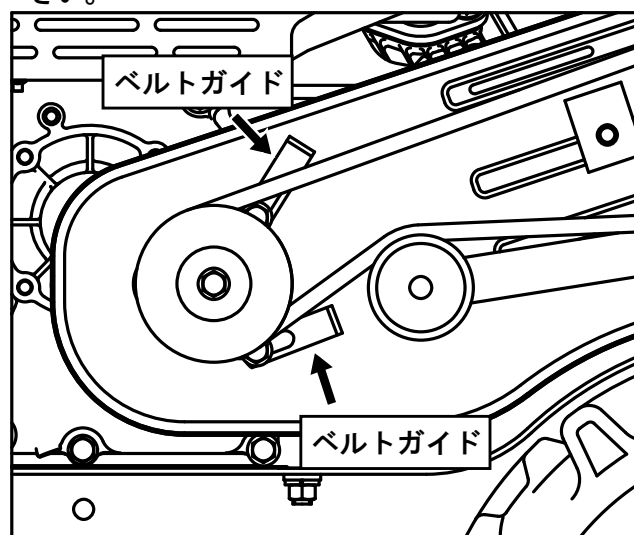
振動防止プレート



3. エンジンと防護カバーを固定しているボルトを緩めます。
 4. エンジンベースとエンジンを固定しているボルトを緩めます。
 5. エンジンを前後に動かしベルトの張りを調節します。
- ※ Vベルトが曲がらないよう、大小のプーリーが一直線になるよう調整してください。曲がったまま使用するとベルトの破損につながります。



6. 主クラッチが「入」の時、ベルトとベルトガイドのすき間が3～4mmになるように調節してください。



7. 調整が終わったら各ボルトを確実に固定してください。

重要

- ※ 使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後に再調整してください。
- ※ 主クラッチケーブルを調子した場合、エンジンを始動してクラッチの「入」「切」が確実に行えるか確認してください。クラッチが切れない場合は使用をやめ購入先へ調整を依頼してください。

簡単な手入れと処置

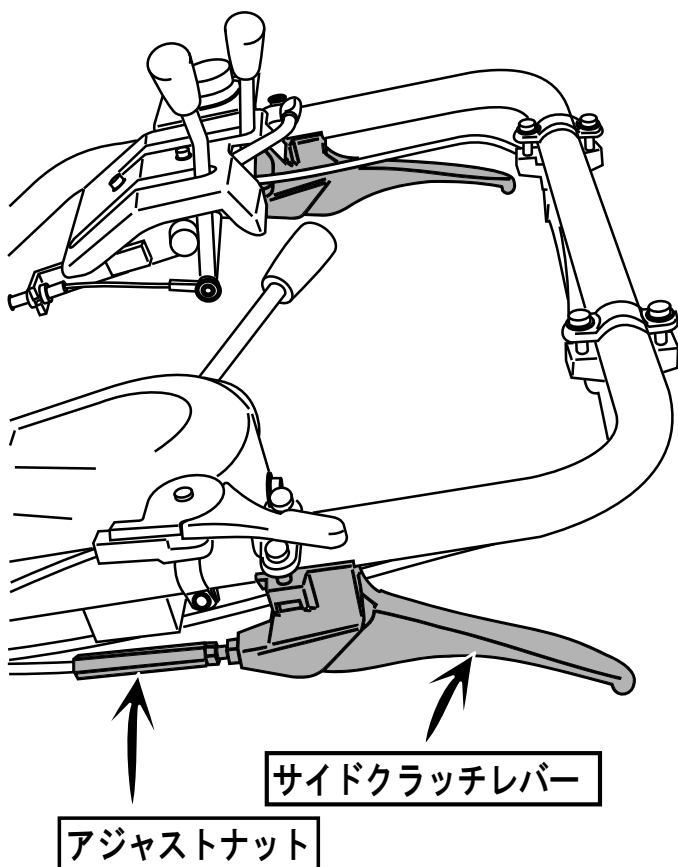
■サイドクラッチの調節



警告

※ 必ず平坦な場所に安定させ作業を行ってください。

1. 左右のサイドクラッチが入っていることを確認してください。
サイドクラッチが入っておらず、レバーが戻らない場合はハンドルを持って機体を左右に振りサイドクラッチを入れてください。
2. アジャストナットを調節しサイドクラッチの調節を行います。
サイドクラッチレバーを握った時、1～2mm程度遊びができるように調整してください。
調整後はナットを確実に固定してください。

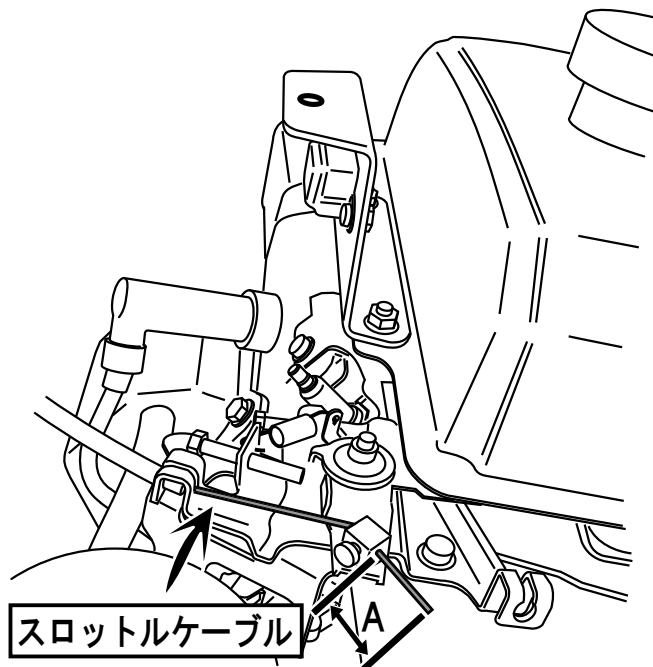


◆スロットルレバーの調整

スロットルレバーを最高速にしてもエンジン回転が上がらないときは、スロットルケーブルを固定しているネジを緩めて調節します。

ケーブルのA部分の長さが長くなるように調節するとエンジン回転数が高くなります。

調整にあたっては購入先にご相談ください。



簡単な手入れと処置

使用後の手入れ

使用後は必ずその日に清掃を行い、各部についている土やゴミを落とし、各しゅう動部はさびないに油やグリスを塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まるとエンジン焼付きの原因になりますのでよく清掃・点検を行ってください。

重要

※ 水洗いのときにエアクリーナ吸気口から水が入らないように気をつけてください。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

重要

※ コックを開いたまま保管したり、前に倒したり、また車両で運搬するなどの行為はエンジン始動が困難になる恐れがあります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。

■長期保管時の手入れ

！ 注意

- ※ カバーをかけたり、納屋に保管するときは火災の恐れがあるためエンジンが冷えてから行ってください。
- ※ 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災の恐れがあります。

1. ブレーキレバー（主クラッチレバー）を駐車ブレーキ[入]の位置にし、ブレーキをかけます。
2. 燃料タンク・キャブレター・フィルターポット内のガソリンは全て抜き取ります。（1カ月以上使用しないとき）
3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントをきれいに掃除します。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って始動が困難になることを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めておきます。
6. カバーをかけ、湿気や草、ワラ及びホコリのない場所に置きます。

重要

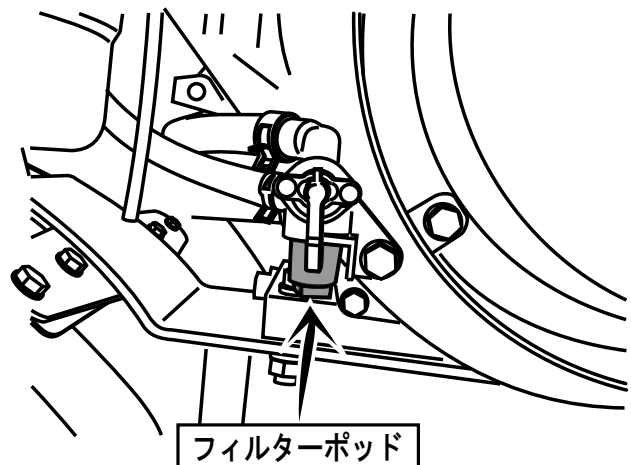
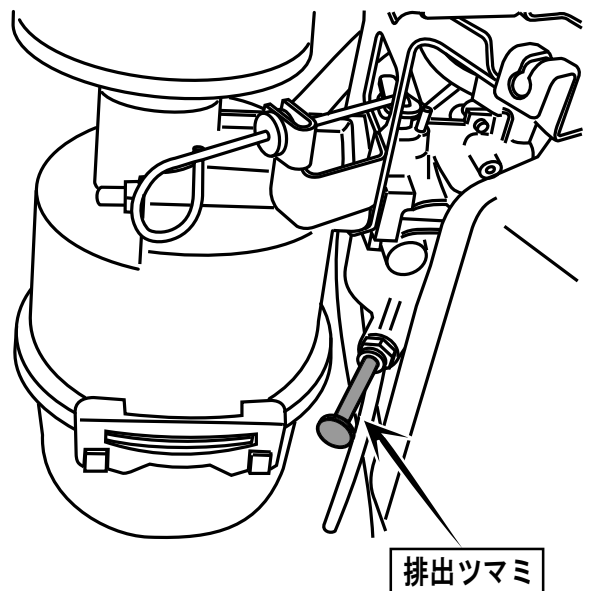
※ ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆やすくなります。

■燃料の抜き取り

！ 注意

- ※ 燃料を抜き取るときはエンジンを停止し、エンジンが十分に冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対に行わないでください。
- ※ 燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってください。

1カ月以上使用しない場合は、燃料タンクのガソリンはポンプなどで抜き取り、キャブレター内にガソリンは排出ツマミを引いて、フィルターポットも外して全部抜き取ります。



重要

※ ガソリンをそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

簡単な手入れと処置

洗車時の注意

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人に怪我をさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルにしたがって、正しく使用してください。

⚠ 注意

機械を破損させないように洗浄ノズルを拡散にし2m以上離して洗浄してください。

もし、直射したり不適切な距離から洗車すると

1. 電気配線部被服の破損・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
2. 機械の破損・損傷・故障原因になります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例) (1) シール・ラベルのはがれ。

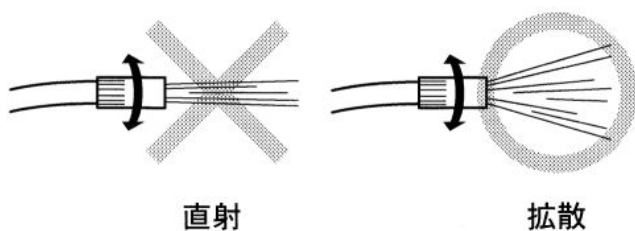
(2) 電子部品・エンジン等へのしん入による故障。

(3) 車輪・オイルシール等のゴム類樹脂類等の破損。

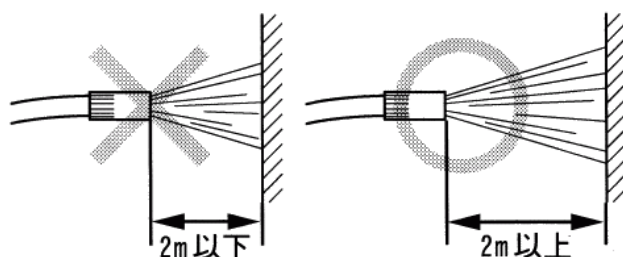
(4) 塗装、メッキ類の皮膜はがれ。

■長期保管時の手入れ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



管理機を運搬するとき

自動車（トラック）への積み込み、運搬。

注意

- ※ 積み込み、運搬は平坦な交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。
- ※ アルミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐えられるもので、トラックの荷台高さ[1]に対してアルミの長さ[4以上]ものを使用し、確実に固定してください。
- ※ 足元に注意し車速は最低速で上りは[前進]、下りは[後進]で行ってください。
- ※ 途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒の恐れがあります。
- ※ トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさむ恐れがあります。
- ※ トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を積み込み・積降ろしに必要な最低限の量とし、残りのガソリンは別に用意していた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災の恐れがあります。

1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキをかけます。
2. アルミ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で上りは[1速]で、下りは[後進]にします。
4. 機体の駐車ブレーキを作動させます。
5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。
6. 燃料コックレバーを[閉]にします。
7. 雨天時はエアクリーナの吸気口にカバーをかぶせてください。

重要

- ※ ロープをかけるときは、変速レバーや樹脂カバー小物部品にロープが触れないよう気をつけてください。破損したり機能が損なわれる恐れがあります。
- ※ エアクリーナの吸気口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ボコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
- ※ 燃料コックレバーを[開]いたまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難になります。またクランクケース内にガソリンが流入することもあります。

付 表

1.主要諸元

型 式 名					KF85	
機 体 寸 法	全 長 (mm)				1655	
	全 幅 (mm)				720	
	全 高 (mm)				780	
	乾燥重量 (kg)				128	
エ ン ジ ン	型 式 名				GB290LN-347	
	種 類				空冷4サイクル傾斜型横軸OHVガソリンエンジン	
	総排気量(L[cc])				0.296[296]	
	連続定格出力(kW[PS]/rpm)				4.4[6.0]/1800rpm	
	使用燃料				自動車用無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量(L)				5.4	
	潤滑油容量				1	
	始動方式				リコイルスタータ	
走 行 部	車軸形状				丸軸	
	車軸径				28	
	車軸管				39.5	
伝 導 部	主クラッチ				ベルトテンション	
	エンジン 主軸				VベルトSB48×2	
	主軸 車軸				ギヤ、チェン	
	変速段数				前進4段、後進2段(副変速含)	
走 行 速 度	前 進	1速	副 変 速	低速	0.269m/s	
				高速	0.845m/s	
		2速		低速	0.515m/s	
				高速	1.619m/s	
	後進			低速	0.308m/s	
				高速	0.588m/s	
	P T O	軸 形状		φ20インボリュートスプライン		
		回転速度		低 rpm	457	
高 rpm			849			
関 装 操 係 備 作	ド ハ ル ン	形状		ループ式		
		上下調節 mm		370(中央5段、ただし回動時4段)		
		左右回動		21° づつ各2段		
ロ ー タ リ 関	PTO低速		一次チェンケース低	218rpm		
	PTO高速		一次チェンケース高	296rpm		
	PTO低速		一次チェンケース低	404rpm		
	PTO高速		一次チェンケース高	550rpm		
	最大有効径 mm				φ400	
	尾 輪				遊動式双尾輪	

◎本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

2.主な消耗品

	部品番号	部品名称	個数	備考
1	23710-0000-276001	Vベルト SB-48ローエッジコグHP2	2	
2	23710-0000-265001	サイドクラッチワイヤー	2	
3	23710-0000-269001	チェンジワイヤー	2	主変速
4	23710-0000-271000	テンションワイヤー	1	主クラッチ
5	23710-0000-307005	インデックスワイヤー(L)	1	回動
6	23710-0000-308005	インデックスワイヤー(S)	1	上下
7	23710-0000-326001	アクセルワイヤー	1	
8	23710-0000-329000	ロータリクラッチワイヤー	1	
9	23720-0000-301000	ワイヤーハーネス	1	電線

トラブルと対処

■エンジンが始動しないとき

原因	処置
● 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。(6ページの「運転のしかた」を参照)
● タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以上保管しガソリンが劣化した。	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し新しいガソリンを入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを掃除する。または新しいものと交換する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何度も引きガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し(開き)リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
● エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したため、キャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
● エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しいものと交換する。
● 点火プラグの花火が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しいものと交換する。

■エンジン回転数が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じた)まま運転している。	チョークを戻す(開く)。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して掃除する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して掃除する。
● スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調節する。

■エンジンが振れる、異音が発生する。

原因	処置
エンジン取付ボルトがゆるんでいる。	取付ボルトを締付ける。

■ハンドルのガタが多い

原因	処置
ハンドル回転部のガタが多い。	ハンドルの上下レバーを調整する。 ハンドルの旋回レバーを調整する。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等でご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするよう研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷されていますので、安心してお使いいただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

品番 237200000405000

・製品のご相談は下記の販売店へ



関東農機株式会社

本社工場/本社営業所	〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493 TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627
鏡石工場/福島営業所	〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石字大町 57 TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133
盛岡工場/東北営業所	〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区渋民字岩鼻 20-55 TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119
九州営業所	〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351 TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760